

①定量的評価

令和7年度までの県政運営の指針である「新秋田元気創造プラン」の評価制度を準用し、ビジョンに定める成果指標について、次の基準により達成状況を評価する。

【数値目標に対する達成率の判定基準】

評価結果	判定基準
a	達成率が100%以上
b	達成率が90%以上100%未満
c	達成率が80%以上90%未満
d	達成率が70%以上80%未満
e	達成率が70%未満
n	実績値が未判明

判定結果の配点 a：4点、b：3点、c：2点、d：1点、e：0点

【定量的評価の判定基準】

評価結果	判定基準
A	判定結果の平均点が3.6点以上
B	判定結果の平均点が3.2点以上3.6点未満
C	判定結果の平均点が2.8点以上3.2点未満
D	判定結果の平均点が2.4点以上2.8点未満
E	判定結果の平均点が2.4点未満

【成果指標】※（ ）内はR8目標値

【全体指標】

- 指標1 文化芸術を鑑賞している人の割合（64.6%）
指標2 文化芸術活動を行っている人の割合（25.3%）

【施策の指標】

施策1

- 指標1 県が主催、補助、後援する文化芸術イベントの年間参加者数（415,000）
指標2 県立美術館・近代美術館・県立博物館・農業科学館の利用者数（275,000）

施策2

- 指標 「ブンカDEゲンキチャンネル」投稿動画の年間視聴回数（140,000）

施策3

- 指標1 若手アーティスト等の育成・支援件数（17）
指標2 国・県指定等文化財の件数（827）

②定性的評価

年度ごとに文化芸術推進協議会が選定する複数の個別事業について、大学生からなる評価チームが実施状況の調査を行い、当該事業の質的水準を「有効性」、「運営」、「工夫」等の観点から評価する。

評価項目	
有効性	【妥当性】施策・事業の目的や狙いに沿った内容であったか
	【表現者における充実度】出演者やアーティストが創造性を十分に発揮できる内容であったか
	【表現者における発展性】出演者やアーティストの表現活動の発展を促す内容であったか
	【受容者における充実度】参加者や来場者の世代、性別等にかかわらず満足感が得られる内容であったか
	【受容者における発展性】参加者や来場者の興味・関心を発展、深化させる内容であったか
運営	【効率性】投入したコスト（費用、時間）に見合う内容であったか
	【計画性】事業が計画性を持って行われていたか
	【連携】事業実施者と関係団体（参加団体や施設等）との連携が図られていたか
	【業務遂行能力】事業実施者と関係団体は事業を適切に遂行するためのノウハウ及び実績を有していたか
	【持続可能性】今後も継続して行うことができる事業運営体制がとられているか
工夫	【業務負担の平準化】事業運営体制において適切な分業が行われていたか
	【広報・周知】広範囲の対象に情報が届くように、配慮や工夫が図られていたか
	【独創性】創意工夫があり、独創性を有する内容であったか
	【体験機会の提供】実感を伴った文化・芸術の理解を促進する参加者の体験機会が設けられていたか
	【対話機会の提供】参加者や来場者と事業実施者の間に対話の場が持たれていたか
ビジョン重点項目	【デジタル化】デジタル技術を活用した創意工夫が行われていたか
	【波及効果】地域活性化（人の交流、にぎわいの創出）が期待できる内容であったか
	【地域性】郷土の魅力を改めて発信できる内容であったか
	【広域性】広い地域からの参加、来場があったか
	【育成・継承】発表者や参加者に若い世代が加わっていたか
	【他分野との連携】地域の学校等と連携した取組を行うことができていたか
	【包摂性】高齢者や子供、障害者等への配慮がなされていたか

A高い⇔E低い（5段階で判定）

※評価が困難な場合や評価項目が事業の性質に馴染まない場合：N